

平成18～20年度のまとめ

○まとめ

- ・小中学校教員と新居浜高専とのネットワークが進展し連携が強化されて、実績が向上した。課外活動の制約にもかかわらず、取組が進んだ。
- ・地域ものづくりコーディネーターが連携強化に大きな役割を果たしたと考えられる。
- ・小中学校への出前活動、実技研修会活動の実績向上に見られるように、各プロジェクトの活動が活発化してきた。
- ・新居浜高専学生の参加が進展した。学生の自己点検アンケート結果により、地域連携プロジェクト型ものづくり活動の教育効果が見られたと考えられる。また、異学年グループ活動による体験学習の効果も見られた。ものづくり活動では低学年の参加が主となっている。3年生が上級生として下級生を指導するケースも見られたが、教育効果があったと見られる。
- ・本取組の「学生の地域連携プロジェクト型ものづくり活動」は有効性のある新しい教育システムと考えられる。
- ・まちづくりの取組においては、学生の取組によりロボット、システム等の成果物が得られた。また、学生アンケート結果により、教育効果が見られた。
- ・石川・富山高専の現代GP発表会で、招待校として取組の発表を行った。

◇本プロジェクトでの課題

- ・出前時間帯の調整
高専学生の授業時間との調整が難しい。課外活動としての制約があり、正課に取り入れることが期待される。
- ・新居浜高専の異学年の参加・連携の推進。
ものづくり活動では教育効果があったと見られるが、まちづくり活動ではプロトタイプ製作等5年生の卒業研究となるので、製作の過程での低学年の参加について検討を要する。

○現代GP終了後の自主的な活動継続

- 小中学校への出前活動、実技研修会活動については高度技術教育研究センター、ものづくり教育支援センターが中心となって継続していく。また、タスクフォースによりNEXT GPにチャレンジする。
出前活動については以下の実行上の課題がある。
- ・材料費等の確保
平成20年度は出前授業の実費負担を一部実施した。そのため、当該テーマについては一部出前授業の減少があった。
- ・教職員、補助学生の移動手段の確保
困難な課題である。学生の現地集合が容易な近隣の頻度が高くなっている。